



北八ヶ岳散策



(報告) 西山哲明

○山行期日 2021年10月6～7日

○メンバー 単独

天気が悪いときや特に予定がなくて、それでも山に入りた時は、八ヶ岳に行く事が多い。大概是車で南八ヶ岳の赤岳や硫黄辺りだが、せっかく秋だし紅葉が綺麗な北八ヶ岳を一泊で行ってみようと思った。最初は高見石小屋にテント泊とも思ったが、調べると最近では食事が美味しいらしいとのことだったので小屋泊の食事付きという贅沢な山行にした。

新宿からあずさ1号で茅野まで出て麦草峠までバスで移動する、平日にも関わらず結構人が多い、白駒の池で降りようかとも思ったが観光客がごった返している場所での出発の準備は嫌なため手前の麦草峠で降りた。麦草峠から白駒の池までは比較的歩きやすかったが、白駒の池が近づくに連れて観光客が増え始めた。皆思い思いに苔や紅葉の写真を撮っている。邪魔にならないように声をかけながら追い越していく、白駒の池の青苔荘はさらに人が増えてきたので、数枚の写真を撮って早めにその場を離れることにした。

今回はYouTubeにアップするためのムービー作りも兼ねていた。時折自撮りを行う、撮影は木などにiPhoneをくくりつけて、一度離れてから歩くシーンは撮影をしてカメラを回収するので他の人に見られると結構恥ずかしい。周りに誰もいないことを確認しつつ、やっと数シーン録ることができた。そんなことをしながら、登り詰めるとニューに到着した。

ニューからの景色は素晴らしく、ところどころ黄色く黄葉した山並みや、先ほどまわった白駒の池がよく見える。白駒の池だけが紅く楕円に縁取られていたので、紅をつけた女性のようにも見えた。南八ヶ岳は荒々しく男性的なイメージだが、北八ヶ岳は彩られた女性的な感覚がするような気がした。

サンドイッチを作り、しばらく休憩をする。ここからならゆっくり撮影をしながら歩いても3時過ぎには着くだろう。景色を楽しみながらのんびりと歩いた。

案の定、中山経由で高見石小屋には3時を少し回ったあたりには着いてしまった。受け付けを済ますとランチの時間は過ぎているが、宿泊客ならば名物の揚げパンを頼めるとのことだったので、早速オーダーする。なんでも余ったパンを従業員用に作っていたのが人気となり商品化されたいらしい、揚げたてのサクサクでとてもおいしかった。

翌朝起きてみると、ガスがひどい雨でも降っているかのようだが地面はさほど濡れていない。外に出ると湿気た空気が体を包み込む。ダメ元で小屋の裏側にある岩場に登り朝陽を見に行くが、見えそうにもない。昨日この場所にきたときは、白駒の池がはっきりと見えたが、今は真っ白で全く見えない。それでも諦めきれなくて、東西南北を確認してカメラをセットする。日の出の時間になっても多少明るくなる程度で太陽は出なかったが、諦めかけた時、ほんの一瞬だけ霧が晴れてきて、なんとかみることができた(次頁写真)。



ガスの中出発、雨ではなく寒くはないのでフリースだけ着込んだ。中山を經由して麦草峠までは、歩きやすい登山道を早足で歩いた。麦草峠はガスが晴れていたが、向かいの蓼科方面は雲で覆われている。どうも今日は天候が良くないようだ。道路を渡って茶臼山に向かうことに。進めば進むほどガスが濃くなってきた。時折青空が見えるような気がしたが、それも一瞬の出来事である。茶臼山を越えて縞枯山に到着した。ここから三ツ岳に向かうが、距離がたいしてないのにガイドブックでは2時間と少し時間がかかるようだ、よほどの急登なのかと思ったが、上がってみてわかった。巨大な岩がゴロゴロしており、飛石状に連なっている。地図をよくよく見ると“岩石群”とちゃんと書いてあったのを見落としていた。ひょいひょいと岩場を抜けて、分岐についた。

あとは北横岳を登れば、今回の目的地となる。この辺から登山客や観光客が増えてきた。ガスの中北横岳に到着したが、もちろんガスで見渡せない。帰る途中七つ池に降りて見ると名前はわからないが、野鳥が鳴いていた。

ロープウェイに近づくにつれて人が増えてきたので、そそくさと進むといつの間にかロープウェイの山頂駅に到着がする。時計を確認するとバスの時間までは十分あるしまだ歩き足りないこともあり、登山道を使った。標高が低くなるとすすき野原があり気持ち良い登山道だった。

(了)